

自分流枕草子

5組4番

M.A

春は誕生。

景色がうるはしくなり、花も色
めいてくるをかしのをりふしに
なりぬ。

動物は冬眠を終えて新しい世界
の一步を踏み出す。

昔と表せる思い出を、今に生か
す。

今という物語が新たに上書きさ
れ誕生する瞬間でなり。

夏は陽光。

ふと上を見上げれば果てしなく
続くをかしの青い空に一際目立
つ太陽。

こは生命にとって力を分け与え
てくれるものでもある。

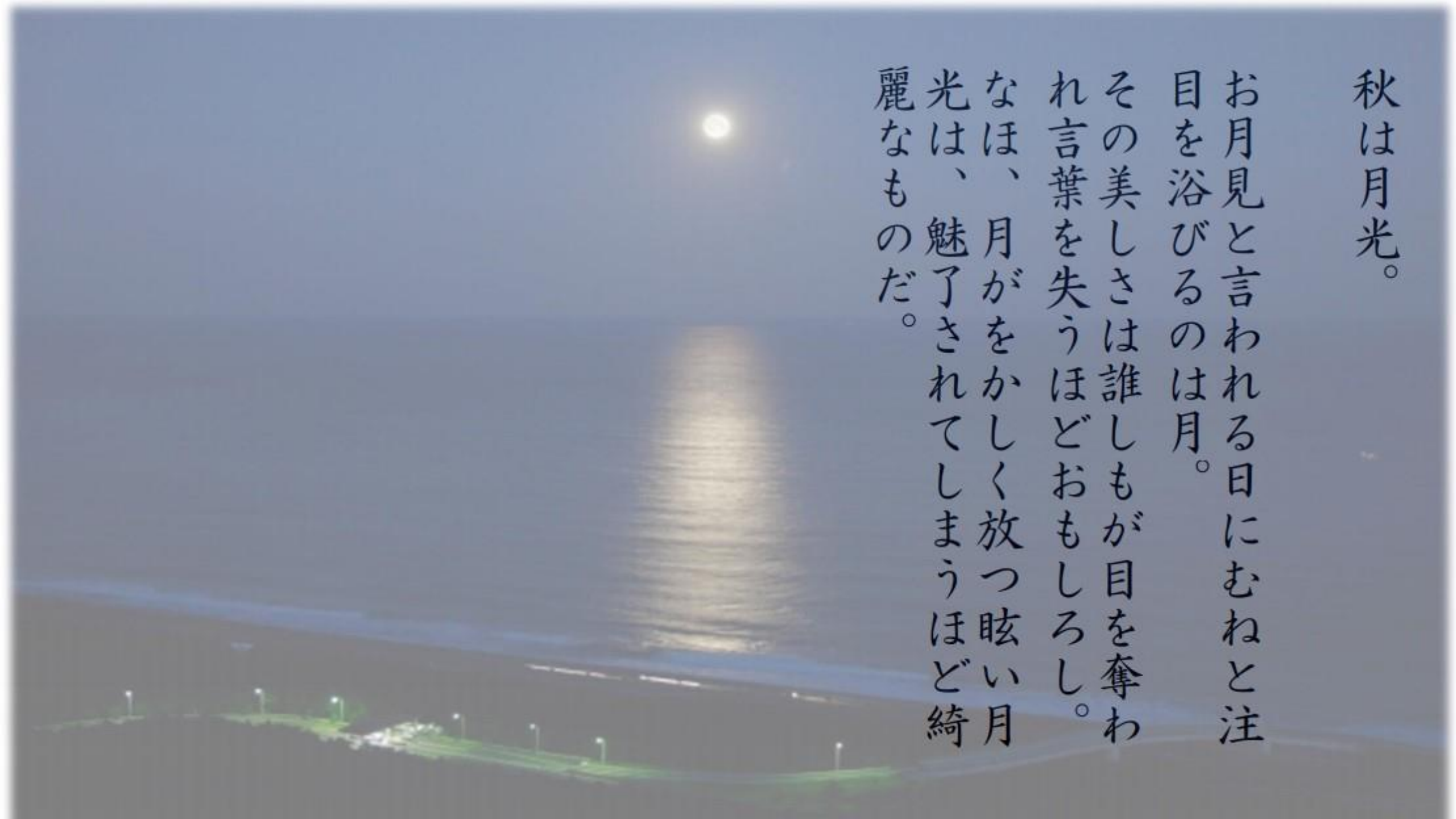
雨上がりですっと現れる太陽の
光は、まるで希望の光のやうに
にほふ。

秋は月光。

お月見と言われる日にむねと注
目を浴びるのは月。

その美しさは誰しもが目を奪わ
れ言葉を失うほどおもしろし。

なほ、月がかしく放つ眩い月
光は、魅了されてしまいうほど綺
麗なものだ。



冬は再生。

今年という終着点。

思い出は決して去らず。

すべてはきしかたとして記録されていく。

そして同じをりふしがまた、新たに再生される。

こはいとをかしきことにもあるかな。